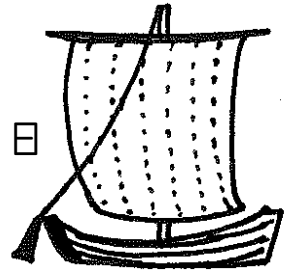


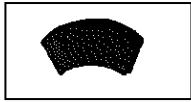
ひがきかいせん の 菱垣廻船に乗ってみよう!

乗船日： 月 日

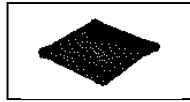


1. 菱垣廻船の横の下半分には、どんな模様がついていますか？正しいものに○をしてください。

(ア)



(イ)

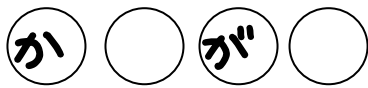


(ウ)



2. 菱垣廻船は、たくさんの板をつなぎあわせてできています。板と板との合わせ目をがっちり固定するための、このくぎの名前はなんですか？

○の中にひらがなを入れましょう。



3. 船の後ろにおいてある大きな樽は、海の生活になくはならないものが入っていました。それは(ア)～(イ)のどれでしょう？

(ア) 食べ物 (イ) お金 (ウ) 水



3階から見えるよ!

4. 色々な荷物を運んでいた菱垣廻船ですが、荷づくりも工夫されていました。それぞれどんな包み方をされていたか？線でむすんでみましょう。

(ア) 砂糖、油、しょうゆ

(イ) 鉄、金、鯉節

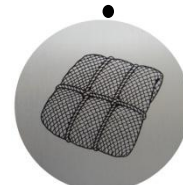
(ウ) 木綿、紙、昆布



つつまき



樽



かますづめ

5. 菱垣廻船には、約2500俵の米俵を積むことができました。さて、米俵1俵の重さはどれくらいでしょうか？

体験コーナーもあるよ！
持ち上げることができるかな？



米俵1俵

=

キロ

6. 金庫の役目をしていたこの小さく頑丈な箱は船筆筒といいます。この船筆筒にはどんなヒミツがあったのでしょうか？正しいものに全部○をしてください。



(ア) 水にうく (イ) ヒミツのひきだしがある (ウ) つくえになる

7. 1000石積級の菱垣廻船には、ふつう何人の乗組員がいましたか？

(ア) 12～15人 (イ) 30～35人 (ウ) 50人以上



ひがきかいせん の 菱垣廻船に乗ってみよう！ 答え

1. 【答え】(イ)

菱垣廻船の「菱垣」とは船の横側につけられた、菱形のかざりのことです。このかざりをつけた船は菱垣廻船とよばれました。菱垣は大坂と江戸の間を荷物を積んで輸送する船のトレードマークでした。

2. 【答え】かすがい

船は波の中でもまれると、その板と板との合わせ目がゆるくなり、水もれがひどくなってきます。そのため、合わせ目をがっちり固定し、隙間があかないようにすることは、とても重要です。ちなみに、夫婦のきずなをしっかりと結ぶ「子はかすがい」という言葉もここから生まれました。

3. 【答え】(ウ)水

この真水が入った樽を水樽といいます。真水は、飲み水や炊事に使うため、海の生活になくてはならないものでした。江戸に着くまでに必要な水は用意していましたが、もし、嵐にあって漂流したり、長い航海で水がなくなってしまうと、雨水を水樽にためて使っていました。

4. 【答え】(ア) 樽 (イ) かますづめ (ウ) こも包み

様々な日常物資を運んでいた菱垣廻船は、効率よく積み重ねられるよう荷づくりも種類によって工夫されました。木綿や紙など軽い物は、木箱に入れ、その上から頑丈に「こも包み」されます。かつおぶしや鉄などふぞろいの重い物は「かますづめ」、油、酢などの液体のものは樽につめられましたが、高級品だった砂糖も、抜き取りや混ぜものをふせぐために樽にぴったりとふたをして運ばれました。

5. 【答え】60キロ

大坂から江戸に向かう菱垣廻船には通常、木綿や綿、油、木綿など日常物資を積んでいました。荷物は、重い物は下へ、軽い物は上へ積み、船の安定をよくしました。それらの荷物ひとつが、だいたい60キロ～100キロの重さになっており、若い男の人ひとりでも持ち上げられる重さになっていました。

6. 【答え】(ア)、(イ)、(ウ) ぜんぶ〇

船筆等は持ち運び金庫で、船頭(船長)が管理し、大切な書類やお金をいれていました。内部にはひみつの引き出しがあったり、万が一、船が沈んでも、海に浮くように作られていたり、大切な財産をかくし、守る役割をはたしていました。また、せまい船内では、机のかわりにもなりました。

7. 【答え】(ア) 12～15人

1000石積級の菱垣廻船には、ふつう12～15人の乗組員がいました。船頭(船長)、賄(事務長)、楯取(航海長)、親仁(水夫長)、炊(炊事係)など、それぞれ役割が決まっており、船頭の指揮のもと一致協力して働いていました。

